

20世紀初頭における塩の需要拡大と関東州塩業

○ヤマサ醤油の概要

- ・19世紀初頭 江戸市場向け有力醸造家の地位を確立。
都市向け大醸造家←(二重構造)→周辺市場向け中小醸造家
- ・1900年頃、銚子醤油醸造業において隔絶した地位を確立。
- ・1864年 幕府より「最上醤油」の称号を与えられる。
…高品質の醤油；大豆・小麦・塩を同量ずつ使用。

○1900年代日本内地塩市場で流通した塩の種類

- ①日本内地塩(煎熬塩) ②台湾・関東州塩(天日塩) ③イギリス・ドイツ塩(岩塩)
- …日本内地塩はNaCl含有率が低く、苦汁分が多い(資料1)→購入から仕込みまでにタイムラグ発生。

○原料塩の日本内地塩から輸移入塩へのシフト

- ～1898年 赤穂塩のみ(資料2)。
- 1899年 ドイツ塩の本格的使用の開始(資料2)。
- 1900年～ 台湾塩移入開始(資料2)。
- 1907年～ 関東州塩移入開始。
- 1914年 原料塩購入方針変更、日本内地塩を再び主原料に。

～1899年 輸移入塩使用開始の要因

- ①原料在庫の圧縮(小麦・大豆と同様)(資料3)。
- ②1896年下期～1898年上期 塩価高騰(資料4)。
- ③1898年 赤穂塩の品質低下。

1900年 ドイツ塩から台湾塩へのシフト要因

- ・台湾塩はドイツ塩より100斤あたり40銭ほど安価。

1907年～ 台湾塩から関東州塩へのシフト要因

- ①塩化ナトリウム含有率の高さ。
- ②価格。

1914年～ 日本内地塩の使用再開

- ・原料塩の変更によって、味が変化。
- ・日本内地塩による「口当たり」の良さ＝「価格の相違にはかえがたし」。
- …塩専売制度によって日本内地塩が安定的に供給される環境が整備されていたことが背景に。

○総括

原料塩の品質評価法⇒塩化ナトリウム含有率…化学工業、塩専売制度でも採用。
醤油醸造業者の生産の大前提＝味の維持…東京の消費者の嗜好性にマッチするよう長年かけて調整。

→味の変化は決して好ましいことではない。

⇒醤油醸造業者の原料塩選択；消費者の嗜好性が多分に影響を与えた。

原料塩生産地の多様化；各醸造業者が長年販売先としてきた消費者が持つ嗜好性に規定された味を維持しながらも、原料在庫の圧縮や原料調達費の低減を進める中で生じた結果。

資料1 輸移入塩と日本内地塩の
成分比較

	塩化ナトリウム %	水分 %	夾雑物 %	苦汁分 %
アメリカ	94.745	2.300	0.981	1.974
ドイツ	96.647	0.502	0.717	2.134
イギリス	92.991	4.623	0.999	1.387
赤穂	82.252	8.564	1.449	7.735
台湾	85.647	9.222	1.058	4.073
關東州	87.311	7.798	1.810	2.412

出典1) 木村俊之助「食塩六種分析報告」、1903年12月6日(ヤマサ醤油(株)所蔵、A747)。
出典2) 浜口合名会社「食塩分析表」、1908年(ヤマサ醤油(株)所蔵、特29-37)。
注1) 出典1には「苦汁分」が記載されていないため、100-(塩化ナトリウム+水分+夾雑物)の式から報告者が計算した。
注2) 出典2による「關東州」の合計値は100に満たないが、そのままとした。

資料2 ヤマサ醤油 産地別塩購入額

円	赤穂	ドイツ	台湾	イギリス	アメリカ	不明	計
1895	3,900	0	0	0	0	0	3,900
1897	4,707	0	0	0	0	0	4,707
1899	6,506	580	0	0	0	776	7,862
1901	1,076	240	1,320	5,852	0	462	8,950
1903	0	0	4,908	0	1,258	1,131	7,297
1905	13,708	0	3,035	0	0	0	16,743

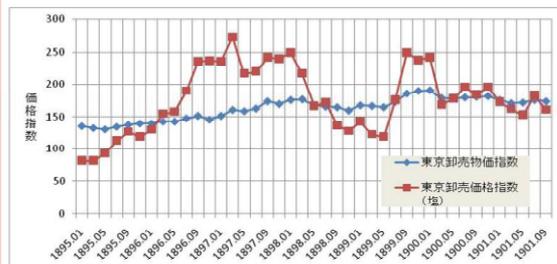
出典) 浜口商店「総勘定元帳」、各年版(ヤマサ醤油(株)所蔵)

資料3 ヤマサ醤油 月別塩購入量
(1897・1907・1912年)

1897年 赤穂 俵	月	1907年			1912年		
		赤穂 斤	台湾 斤	關東州 斤	日本内地 斤	台湾 斤	關東州 斤
0	1月	10,260	202,000	0	0	0	59,000
0	2月	0	101,000	0	0	0	188,800
0	3月	0	50,500	0	0	0	188,800
0	4月	0	80,800	0	0	0	47,200
0	5月	0	111,900	0	0	0	59,000
0	6月	0	0	0	0	0	153,400
4,700	7月	0	111,900	0	0	0	47,200
0	8月	0	202,000	0	0	0	153,400
0	9月	0	70,700	0	0	0	70,800
0	10月	0	50,500	50,500	0	0	118,000
910	11月	0	20,200	131,300	126,800	0	54,400
0	12月	0	200,000	20,200	190,400	0	0
5,610	合計	10,260	1,201,500	202,000	317,200	0	1,140,000

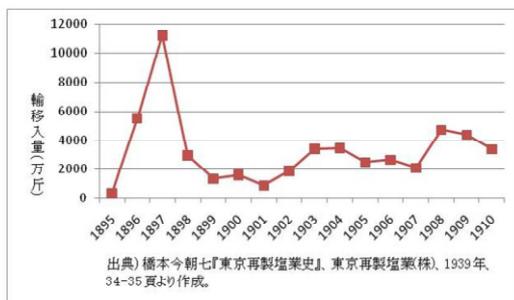
出典) 浜口商店「総勘定元帳」、1897年(ヤマサ醤油(株)所蔵、A490)、浜口合名会社「原料買入帳」、1907年(ヤマサ醤油(株)所蔵、A984)、浜口合名会社「総勘定元帳」、1912年上期(ヤマサ醤油(株)所蔵、A1352)、浜口合名会社「総勘定元帳」、1912年下期(ヤマサ醤油(株)所蔵、A1420)より作成。

資料4 1895-1901年
東京卸売物価・価格指数(塩)の推移



出典) 日本銀行金融研究所歴史統計Web-site
<http://www.imes.boj.or.jp/hista/data/prices.html>より作成。
注) 価格指数は1887年1月基準。

資料5 1895-1910年 輸移入量の推移



出典) 橋本今朝七『東京再製塩業史』、東京再製塩業(株)、1939年、34-35頁より作成。

資料6 塩専売法施行後
ヤマサ醤油 産地別塩購入量

	赤穂		日本内地		台湾		關東州		仰光		合計			
	量	価格	量	価格	量	価格	量	価格	量	価格	量	価格		
1907	10,260	0.79	299,460	1,090,200	83,200	31,221,500	202,000	13,311	3,555,005	0	0.000	1,302,460	87,275,965	
	100斤あたり2.012円		100斤あたり3.639円		100斤あたり12.750円									
1912	317,200	21.60	18,644,700	0	0.000	0.000	1,140,000	77,611	29,635,300	11,600	0.79	342,200	1,468,800	38,622,420
	100斤あたり2.720円						100斤あたり2.600円		100斤あたり2.948円					

出典) 浜口合名会社「原料買入帳」、1907年(ヤマサ醤油(株)所蔵、A684)
浜口合名会社「総勘定元帳」、1912年上期(ヤマサ醤油(株)所蔵、A1352)
浜口合名会社「総勘定元帳」、1912年下期(ヤマサ醤油(株)所蔵、A1420)より作成。